

この度の消費税法案に関する私自身の思い

いつも本当にお世話になります。消費税を巡る政治情勢はいよいよ大詰です。私自身、
党の政調、税調の役員として党内のとりまとめに必死で当たって参りました。しかし、その大前提として、
定数削減、行革実行法の成立、社会保障改革の推進など様々な環境整備がなくてはなりません。
こうした前提条件をすべてとして、消費増税一辺倒ととらえかねない政権の姿勢に危機感
をもっています。

6月5日の政調役員会、6日の幹事長室会議の場において、前原会長、仙谷・樽床代行など
幹部を前に、積年の思いを発言させて頂きました。

「消費増税の必要性は誰よりも理解しているつもりです。しかし、それには様々な環境整備が前提で
なくてはなりません。消費税はどこまで行ってもやりくりの詰。しかし、国民との信頼構築は、国家百年の計」と、
組織の一員としての様々な思いはあります。しかし、何が違う。踏むべき手順を間違えている。
そんな感情を拭いきれなかった。私自身のこれまでこらえて来た思いでした。

理想と現実のギャップに苦しみ続けてこの6年あまり、このような形で順序が逆転してしまった
ことを深くお詫び申し上げます。その上で、あらためて政権は最後の最後まで、以下に全力を挙げ、
死力を尽くすべきだと思います。

1. 定数削減
2. 行革実行法が審議・成立
3. 社会保障改革の推進
4. 党分裂・政権崩壊の回避
5. 公約違反との国民の怒りへの真摯な謝罪。

衆議院議員 小川 淳也

是非、皆様のご意見をお寄せください。

FAX 送付先 衆議院議員 小川淳也事務所 **087-815-1189**

ご意見記入欄

※差し支えがなければご記入ください。

お名前

TEL

FAX

ご住所

e-mail